



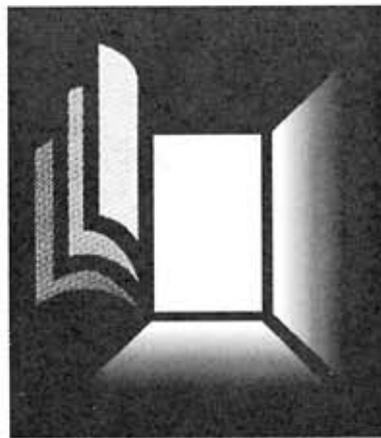
## IPA第26回大会

# INTERNATIONAL PUBLISHERS ASSOCIATION THE 26<sup>th</sup> CONGRESS

## 報告書

2000年5月1日(月)～4日(木)

アルゼンチン・ブエノスアイレス、  
シェラトン・ブエノスアイレスホテル&コンベンションセンター



社団法人 日本書籍出版協会

## 目 次

「出版の未来を見つめよう」	3
社団法人 日本書籍出版協会 理事長 渡 邊 隆 男	
全体概要	4
大会要旨	5
①開会式	
②全体会議のテーマ・概要	
③19分科会の概要	
④閉会式	
ブエノスアイレス国際ブックフェアの概要	7
日 程	8
決 議 案	13
各国別登録者数	15
大会参加者	16
電子環境における知的所有権保護	17
スティーブ・ストーン (マイクロソフト社)	
日本のスピーカーの発言	20
「2000年子ども読書年への取組み」 小川万里子 (福音館書店)	
「電子出版における著作権保護」 金原 優 (医学書院)	
「ジョイントベンチャー出版－新地球時代における協力－」 新田 満夫 (雄松堂出版)	
「デジタル時代の出版者の役割と権利」 上野 幹夫 (中村秀穂 (代読) 医学書院)	
「著作権侵害と複写権」 佐藤 政次 (オーム社)	
関連ウェブサイト	32

## 出版の未来を見つめよう

今年、グーテンベルク生誕600周年であります。今年開催された第26回のIPAブエノスアイレス大会で、私たちは、著作物の伝達手段として、グーテンベルクの活版印刷術発明以来の根本的な変革をもたらすといわれるインターネットの発達、出版者にどんな未来をもたらそうとしているのかを垣間見た思いをいたしました。



四年前のバルセロナ大会の時は、アマゾン・コムは既に創業していましたが、まだ大きな存在ではなく、オンラインによる出版販売やひいてはオンラインでのコンテンツ販売が、この四年間でこれほど大きな存在になろうとは何人が予想し得たでしょう。

地球上に存在する知識の量は、7年間で2倍になると申します。私たち出版人の築き上げてきた伝統的出版の外側で、新しい流れは確実に私たちを新しい場所に動かしています。

今回の大会でのマイクロソフト社のプレゼンテーションでは、あと20年もすれば印刷媒体の新聞は発行されなくなり、辞書の「本」の定義の第1項は電子書籍の説明になるだろうという「未来予想」が示されていました。それがサイエンス・フィクションの話とは限らないような時代になっているということ、今回参加した誰もが痛感したことでしょう。

地球上で最も遠い位置にある日本とアルゼンチンの間でも、ファックスも電子メールも瞬時に到達します。デジタル技術は素晴らしいものです。しかし、われわれはデジタル技術では伝達されない何かを求めて、23時間をかけてアルゼンチンまで出かけました。そこで何を見聞きし、何を得たかは参加者それぞれに異なりましょう。

電子書籍時代に捧げられたIPA大会という印象はありますが、著作権保護の問題や、出版の自由の問題も、依然として大きなテーマであることに変わりはありません。全体会議でWIPOの代表から詳しい報告が行われたWIPO著作権条約には、日本もこの六月に正式加盟を行いました。また、読書推進の重要性についても世界的なテーマです。

出版者の権利、複写権問題等をはじめとする著作権問題や子ども読書年の活動、国際共同出版に関する提案等については、日本からのスピーカーの皆さんが有益な発言をしていただきました。

いずれにしても、世界の出版界はいま大きくハンドルを切って、新たな環境に適応して生き残る道を選択しています。座したままでは、未来は見えてこないようです。

社団法人 日本書籍出版協会  
理事長 渡邊 隆 男

## 全 体 概 要

### 南半球で初のIPA大会

国際出版連合（IPA）の第26回大会は、2000年5月1日（月）から4日（木）まで、アルゼンチン、ブエノスアイレス市のシェラトン・ブエノスアイレス・ホテル&コンベンションセンターで開催された。今回は、104年のIPA史上、初めて南半球での開催となった。大会には、43カ国の出版協会と、2つの国際機関等からあわせて、約880名が参加した。日本からは、34名（同伴者を含む）が参加した。

### 大会テーマ

今回は「21世紀の出版—過去から未来への道」を大会テーマとし、新たな電子書籍（eBook）の台頭に出版者がどのように対処していくべきかが論じられた。前回バルセロナ大会でも、伝統的な印刷媒体と新たな電子媒体の共存が求められる環境において、著作物の伝達者として、出版者の創造的な役割を如何に守っていくかが主要テーマであったが、今回はさらに、一歩進んで、電子書籍（eBook）をビジネスとして立ち上げていく方途を積極的に見出していこうという方向性が、強く表れた大会となった。特に、マイクロソフト社が、電子書籍分野に積極的に参入を表明した直後であり、同社からのスピーカーの発言が参加者の注目を集めていた。

### 会議構成と日本からの参加者

会議は、8つの全体会議と19の分科会で構成された。日本からは、前田完治・書協副理事長（三修社）が、第14分科会「政府の文化政策としての出版」、金原優・書協国際委員長（医学書院）が第7分科会「著者と出版者の権利」の議長をそれぞれ務めたほか、小川万里子（福音館書店）、新田満夫（雄松堂出版）、金原優、佐藤政次（オーム社）、中村秀穂（医学書院＝上野幹夫氏の原稿を代読）の各氏がそれぞれの分科会でのスピーカーとして参加した。

### 大会決議

最終日には、三日間にわたる議論に基づいて9つの決議案が提案された。ただし、これらは、IPAの公用語4カ国語（英・独・仏・西）で成文化され、今秋のフランクフルト・ブックフェアで行われる理事会で正式に承認されることとされた。

閉会式では、インドのディナ・マルホトラ氏の「出版の自由」に関するメッセージが読み上げられ、ゲストとして出席したアメリカの作家、ジョン・ワイドマン氏から、書籍とその流通が電子化されることで、著作物が一層商品化され、出版者本来の役割が見失われることに対する危惧が表明される場面もあった。

最後にアラン・グルンド会長が、今大会の成功について、実行委員長のアナ・マリア・カバナラス・アルゼンチン出版協会に感謝の意を表明し、新たにIPA会長を引き継ぐペレ・ピセンス氏（スペイン）を紹介した。

### 次回大会

次回大会は、2004年にドイツ・ベルリンで開催される。また、次回の国際著作権シンポジウムは2002年に、IPAの公式会議としては初のアフリカ、ガーナで開催されることが発表された。

## 大会要旨

### ■ 開会式 ■

最初にアラン・グルンド会長から以下の点にわたる開会挨拶が行われた。

- ・ 出版の国際的局面・各国出版産業の著しい進展 (70カ国以上のIPA加盟協会会員)
- ・ 新しい変化に直面する出版—通信手段の急速な発展、キャピタル・フローの自由化、読書習慣の開発の必要性、適切な課税、健全な流通、知的所有権の尊重
- ・ 文化の発展に関するユネスコとの協力および電子環境における知的所有権保護の技術的側面に関するWIPOとの協力維持の必要性



開会式

続いて行われたWIPO (世界知的所有権機関) を代表して出席したジョエル・ロジェ氏の挨拶の主な点は以下の通り。

- ・ IPAとWIPO間の密接な協力
- ・ 著者、出版者と読者との間の変わりつつある関係
- ・ 技術開発と電子商取引といった著作権に対する新たな挑戦
- ・ 著作権保護の対象範囲の確定、権利の定義、例外と制限の定義、電子環境におけるこれら権利の行使と管理

引き続き、ユネスコを代表して挨拶したミラグロス・デル・コラル氏 (ユネスコ出版部長兼創造・文化産業・著作権部長) の主な点は以下の通り。

- ・ グローバル化傾向について
- ・ 開発途上国における本や教育に対するアクセスの欠如と、著作権侵害に対する闘う手段の不足について
- ・ 読書の将来と電子環境における著者と出版者の役割の再定義、著者と読者の関係の重要性について

### ■ 全体会議のテーマ・概要 ■

#### 『書籍と読書：過去と未来』及び『読書の将来』

【議長＝フランシスコ・デル・カリル及びアナ・マリア・カバネラス (アルゼンチン)】

E-book 分野におけるリーディング・カンパニーのビジネス戦略とビジネスモデルの明確化の必要性について、マイケル・ウィレンス氏 (トムソン・コーポレイション・ウエスト・グル

ープ代表)とディック・プラス氏(マイクロソフト社・技術開発担当副社長)から話された。これに対する反省的意見として、ロジャー・シャルティエ氏(Director of Social Studies, Ecole des Hautes Etudes)は、新たな読書支援ツールである eBook と文化的著作物のアイデンティティ保護との間の適合あるいは不適合に関し論じた。

### 『電子的環境における知的所有権』

【議長=キャサリン・パーズレイ氏(ハーコート社副会長兼顧問、IPCC議長)】

WIPOのシーラ・ペルムッター氏により1996年のWIPO条約に対する包括的な基調提案が行われ、出版者の将来的見通しに立った利害得失を説明したのに対し、マイクロソフト社のスティーブ・ストーン氏(17頁参照)とオラシオ・グティエレス氏は、一方で制限および例外規定とその応用との結合を強調、もう一方で技術的保護対策の効果を強調した。

### 『電子的環境におけるライセンス契約』

【議長=ウルフ・フォン・ルシアス氏(Lucius & Lucius Verlag、IPA著作権委員会委員長)】

アルノー・ド・ケンプ氏(シュプリンガー社、独)はライセンス協定、オーソライズされたユーザー、権利の移転、使用権、および世界・国内のライセンスの開発に対する、ヨーロッパの傾向の特徴を強調した。

ピーター・ボルマン氏(アカデミック・プレス、米)はSTM分野のライセンスモデル、特に一冊の雑誌とバンドルされた電子媒体の結合の必要性についてスピーチした。

### 『出版業のための新技術』

【議長=ジャン・マニユエル・ブルゴワ氏(Director General, Magnard/Vuibert, France)】

E-Book分野のハード、ソフトの主要プロバイダー、ヌーボーメディア社のマーチン・エバーハード氏、マイクロソフト社のスティーブ・ストーン氏が市場展開についてスピーチしたのに対し、ジェローム・ルービン氏(E-Ink社・会長)およびジョセフ・ヤコブソン氏(マサチューセッツ工科大学教授)は、E-Ink社の技術によって、より”伝統的”メディアをデジタルなものに結びつけることを目指した長期的見通しについて語った。

最後にジョン・バウムガルテン氏(弁護士、インターネットに対するDVDや音楽の配信に関するプロバイダーとの議論における動画やレコード産業の知的所有権専門の代表的弁護士)は、結びのスピーチとして、著作権のセキュリティについてハード、ソフト会社と議論するよう働きかけることが必要であると述べた。

### 『変化する世界における読み書き』

【議長=パトリア・シュローダー氏(アメリカ出版協会会長、アメリカにおける"Get Caught Reading"の主導者)】

メキシコの著名な言語学者であり教育学者であるエミリア・フェレイロ氏は、読書の民主化という理想はありながら、それを実現するための能力が欠如しているという矛盾、非識字に苦しむ国々(最低限の基本的学校教育が提供できていない国)と、機能的非識字に苦しむ国々(最

低限の基本的学校教育は施されているが、本来の意味での「読者」を生み出していない国)とは区別して論じられるべきこと、出版者と読者の相互関係、非識字を減らす技術が不十分であること等を強調した。

### 『出版の自由に関する基調講演』

元インド出版協会会長のディナ・マルホトラ氏の原稿をIPA副会長に選任されたアショカ・ゴーシュ氏(インド)が代読した。

### ■ 19 分科会の概要 ■

各国から出版社のトップ、制作担当部長、グラフィックデザイナー、権利処理担当責任者、法律および技術専門家、発行者が参加し、広範囲の問題をさらに細部にわたり議論した。

ニューテクノロジー(出版者と書店のための電子商取引、電子およびオンデマンド出版、DOI等)に関連した議題のほかに、グローバル市場における出版の発展と、出版という職業を維持する基本的概念と原則に関して、以下のテーマで多くの分科会が開催された。

文化変容、読書の推進、専門研修の開発、情報の自由流布、著作権侵害に対する闘い。このほか、「南米スペイン語圏の書籍市場」に限った分科会も開催された。

(分科会のうち、日本からのスピーカーの発言原稿は20ページ以降に掲載した。)

### ■ 閉会式 ■

- アラン・グルンド会長の4年にわたる任期中の報告と2000年6月1日から就任する選挙によって選ばれたペレ・ビセンス新会長への引継ぎが行われた。
- 続いてビセンス氏からグルンド氏の任期中の難問に取り組んだ功績に対し、賛辞を述べるとともに1987年来IPA事務局の仕事に専従し、間もなく退任するジャン・クロード・ヴィアッテ氏に謝辞をのべた。
- 引き続きアナ・マリア・カバネラス氏から次回2004年開催予定のベルリン大会主催者のウルフ・フォン・ルシアス氏にIPAフラッグが手渡された。
- 最後にルシアス氏から4年後のベルリンでは心からみなさんを歓迎する旨の挨拶が行われた。

### ■ 第26回ブエノスアイレス国際ブックフェア ■

IPA大会と同じ時期に、ブエノスアイレス国際ブックフェアが開催された。このフェアは、アルゼンチンの昨年の新刊書約12000点に加え、スペインをはじめ、その他ラテン・アメリカ諸国等で発行された50,000点のスペイン語、ポルトガル語を中心とした書籍が出品された。参加国数は62カ国、出展者数は1,320(間接出展者を含む)に及ぶ。

会期は4月18日から5月8日と約3週間に及び、会場面積は24,500㎡(東京国際ブックフェア2000の約2倍)、入場者数は111万人に及んだ。会場時間はいかにもラテン諸国らしく、午後3時から10時まで(金曜と土曜は12時まで)となっている。

日中は先生に引率された児童・生徒、夜は仕事を終えてから訪れる人々で終日賑わっていた。

## 日 程

## ■ 5月1日(月) ■

**全 体 会 議**(会場: Libertador B, C)

9:00 - 10:20 オープニング・セレモニー

日本語通訳有

アラン・グルンド (IPA会長)、アナ・マリア・カバネラス (アルゼンチン出版協会  
会長)、ジョエル・ロジェ (WIPO)、ミラグロス・デル・コラル (UNESCO)

10:20 - 10:30 休憩

10:30 - 11:00 公式開会式

日本語通訳有

アルゼンチン政府代表

11:00 - 11:30 コーヒーブレイク

11:30 - 13:00 『書籍と読書: 過去と未来』

日本語通訳有

議長 フランシスコ・デル・カリル (アルゼンチン)

スピーカー ロジャー・シャルティエ (フランス)、マイケル・ウィレンス (アメリカ)

13:00 - 15:00 休憩・昼食

(13:00 - 14:30 国際 eBook 賞基金・ランチョンセミナー)

15:00 - 15:45 『読書の未来』

日本語通訳有

議長 アナ・マリア・カバネラス (アルゼンチン出版協会会長)

スピーカー リチャード・アイラ・プラス (マイクロソフト社、アメリカ)

**分 科 会**

16:00 - 19:10 『読書習慣を作るための戦略』(会場: Libertador B)

議長 ハラルド・ヘッカー (ドイツ書籍業協会)

スピーカー カルロス・アグラサール (スペイン)、シルビア・カスティロン (コロンビア)、ダニエル・ゴールディン (メキシコ)、ハミデュ・コナテ (マリ)、キース・ネトル (英国出版協会)、ミシェル・プチ (フランス)、パトリシア・シュローダー (アメリカ出版協会会長)、カルロス・シルヴェイラ (アルゼンチン)

16:00 - 19:10 『文化の多様性』(会場: Libertador C)

議長 パスカル・アサティアニ (カナダ)

専門家 ロベール・ピロン (カナダ)

スピーカー イブラヒム・エル・モアレム (エジプト出版協会会長)、アラハンドロ・カット (アルゼンチン)、エリック・リンドグレン (デンマーク)、ジャック・ストダート (カナダ)

16:00 - 17:20 『子どもと若者のための書籍』(会場: Ombu)

日本語通訳有

議長 アルフレド・ワイسفログ (ブラジル)

スピーカー ヨルゲン・バッハ (ドイツ)、ホアン・デ・イササ (スペイン)、小川万里子 (福音館書店、日本)、ヨースト・ゾンネ・ニーホフ (ドイツ)、ジグリオーラ・Z・デュアルデ (アルゼンチン)、



小川万里子氏

**16:00 - 17:20 『コミュニケーションとマーケティング戦略』(会場: Martin Fierro)**

議長 アンテロ・シリオラ (フィンランド)

スピーカー カルメン・バルブォ (コロンビア)、フェルナンド・G・カンボ (コロンビア)、J・L・オチョア (メキシコ)、フリオ・タビア (アメリカ)、J・V・ソル (スペイン)

**17:20 - 17:50 コーヒーブレイク****17:50 - 19:10 『電子出版とオンデマンド出版』(会場: Ombu)****日本語通訳有り**

議長 ハーマン・スプライト (オランダ)

スピーカー ホセ・M・ボイザロー (スペイン)、キャサリン・バーズレー (アメリカ)、金原 優 (医学書院、日本)、ホルゲ・シルベルバーガー (ドイツ)、フリオ・タビア (アメリカ)



金原 優氏

**17:50 - 19:10 『専門教育の手段としてのオンライン図書』(会場: Martin Fierro)**

議長 パク・ソクギ (韓国)

スピーカー ピエロ・アタナシア (イタリア)、ミン・ビョンチュル (韓国)、スティーブ・ダウリング (アメリカ)、エミリアーノ・マルティネス (スペイン)、クラウディア・ロスマエレ (ブラジル)

## ■ 5月2日(火) ■

**全体会議 (会場: Libertador B, C)****9:00 - 10:45 『電子的環境における知的所有権』****日本語通訳有**

議長 キャサリン・バーズレー (アメリカ)

スピーカー 「WIPO著作権条約 その背景と概説」

ミハリー・フィチョール (WIPO)

「WIPO著作権条約 出版者への影響とWIPOの役割」

シーラ・パールムッター (WIPO)

「技術的保護手段 概論と法的保護」

スティーブ・ストーン (マイクロソフト社、アメリカ)、オラシオ・グティ

エレス (マイクロソフト社、アメリカ)、

「議長による総括及び国際レベルにおける今後の法的発展の見通しについて」

**10:45 - 11:15 コーヒーブレイク****11:15 - 12:30 『電子的環境におけるライセンス契約』****日本語通訳有**

議長 ウルフ・フォン・ルシアス (ドイツ)

スピーカー 「オンラインライセンス 欧州での先例」

アルノー・ド・ケンブ (シュプリングァー、ドイツ)

「オンラインライセンス 米国での先例」

ピーター・ボルマン (アカデミックプレス、アメリカ)

パネリスト ミハリー・フィチョール (WIPO)、シーラ・パールムッター (WIPO)

**12:30 - 13:30 『文化、教育の持続的発展』****日本語通訳有**

議長 アラン・グルンド (IPA会長)  
 スピーカー パブロ・ゲルチュノフ (アルゼンチン)

13:30 - 15:00 休憩・昼食

### 分科会

15:00 - 16:30 『著者と出版者の権利』(会場: Libertador B)

#### 日本語通訳有

議長 金原 優 (医学書院、日本)  
 スピーカー ユーゴ・ブイタノ (アルゼンチン)、ギリヤ  
 ーノ・カバネラス (アルゼンチン)、ハラルド・  
 ヘッカー (ドイツ)、リネット・オーウェン (イ  
 ギリス)、上野幹夫 (東京布井出版、日本=中  
 村秀穂代読)



「著者と出版者の権利」分科会  
 (左端=金原優氏、右端=中村秀穂氏)

15:00 - 18:30 『情報分野における吸収・合併』(会場: Libertador C)

議長 リチャード・クラッベ (APNET 議長, ガーナ)、  
 スピーカー ホルゲ・ベッケル (アルゼンチン)、ホセ・マヌエル・ゴメス (スペイン)、マンフレ  
 ト・グリーブ (スペイン)、キーロン・ヒルトン (アメリカ)、ジャン・サルザナ (フラ  
 ンス)、アルベルト・ビタリ (アメリカ)、オラシオ・ザンブラ (アルゼンチン)

15:00 - 16:30 『国際共同出版』(会場: Ombu)

議長 レックス・ルフューブル (STM事務局長)  
 スピーカー レオポルド・ブリュメ (スペイン)、新田満夫 (雄松堂出版、  
 日本)、アンヌ・タバール (フランス)、ウォルター・ワイ  
 スフロッグ (ブラジル)、ロベルト・チュワト (アルゼンチン)



新田満夫氏

15:00 - 16:30 『情報の自由な流通』(会場: Martin Fierro A)

議長 ジョン・クレメント (イギリス)  
 スピーカー アルバロ・バルツォン (コロンビア)、  
 ジャクリーヌ・ウーシオン (カナダ)、ロック・  
 ジャコビー (ブラジル)、フェルマン・V・ラザロ (スペイン)、ブライアン・ワファ  
 ワロワ (南アフリカ)

15:00 - 16:30 『教科書: 著者からWebに?』(会場: Martin Fierro B)

議長 ドミナドール・ブハイン (フィリピン)  
 スピーカー ガストン・デ・ベドゥー (コロンビア)、スティーブ・ダウリング (アメリカ)、ベルト  
 ラン・エヴァノ (フランス)、ベアトリス・トルナド (アルゼンチン)

15:00 - 16:30 『独立出版社と国際化』(会場: Poncho)

議長 フェルナンド・グエデス (ポルトガル)  
 スピーカー ステファン・コノリー (南アフリカ)、ダニエル・ディヴィンスキ (アルゼンチン)、ホ  
 ルゲ・エラルド (スペイン)、ビクター・ンワンコ (ナイジェリア)

16:30 - 17:00 コーヒーブレイク

17:00 - 18:30 『政府の文化政策としての出版』(会場: Libertador B)

日本語通訳有

議長 前田完治 (三修社、日本)

スピーカー ドミナドール・ブハイン (フィリピン)、アラン・クラーク (カナダ)、イレーネ・キット (アルゼンチン)、スマンガラ・ピライ (マレーシア)、フェルナンド・R・ラフェンタ (スペイン)、ルイス・F・サルミエント (コロンビア)



17:00 - 18:30 『専門教育の発展』(会場: Ombu)

議長 フランシスコ・P・ゴンザレス (スペイン) 『政府の文化政策としての出版』分科会

スピーカー ロバート・ベンシュ (アメリカ)、ジェーム・ブリュル (スペイン)、レアンドロ・ド・サガスティザバル (アルゼンチン)、ハイン・グリュンハーゲン (オランダ)、ダグ・スミス (イギリス)

17:00 - 18:30 『出版者と書店のための電子商取引』(会場: Martin Fierro A)

議長 ウルリコ・C・ホプリ (イタリア)

スピーカー ファン・カルロス・コロソ (アメリカ)、ブライアン・グリーン (イギリス)、リカルド・ヌーデルマン (メキシコ)

17:00 - 18:30 『DOI』(会場: Martin Fierro B)

議長 チャールス・エリス (アメリカ)

スピーカー ベノイト・ミュラー (IPA事務局長)、ノーマン・パスキン (国際DOI基金)、ステイブ・ストーン (アメリカ)、エリック・スワンソン (アメリカ)

■ 5月3日(水) ■

**全体会議** (会場: Libertador B)

9:00 - 11:00 『出版業のための新技術』

**日本語通訳有**

議長 ジャン・マニエル・ブルゴワ (フランス)

スピーカー 「電子書籍: 新製品、新標準、新展開」

マーチン・エパーハード (アメリカ)、ステイブ・ストーン (マイクロソフト社、アメリカ)、

「電子インクと出版業におけるその応用」

ジョセフ・ヤコブソン、ジェローム・ルービン (MIT、アメリカ)

「ニューメディアとコンテンツ保護: 映画・レコード産業における経験と出版業界への適用」

ジョン・バウムガルテン (アメリカ)

11:00 - 11:30 コーヒーブレイク

11:30 - 13:00 『変化する世界における読み書き』

**日本語通訳有**

議長 パトリシア・シュローダー アメリカ出版協会会長

スピーカー エミリオ・フェレイロ メキシコ

13:00 - 15:00 休憩・昼食

(13:00 - 14:30 ネットページ ランチョンセミナー)

**分科会**

15:00 - 16:30 『スペイン語圏アメリカの書籍市場』(会場: Libertador B)

- 議長 ユーゴ・セツァー (メキシコ)  
 スピーカー セルティエル・アラトリスト (メキシコ)、ユーゴ・ブリック (アルゼンチン)、ジャン・フランソワ・グロルムンド (フランス)、ギレルモ・エルナンデス (アメリカ)、J・L・モンリアル (スペイン)

15:00 - 16:30 『国際権利管理』(会場: Libertador C)

- 議長 メスチルド・フォン・アレマン (ベルギー)  
 スピーカー ジャクリーヌ・ルドンヌ (フランス)、アントニオ・ミレ (アルゼンチン)、リネット・オーウェン (イギリス)、ギレルモ・シャベルソン (アルゼンチン)

15:00 - 16:30 『海賊版と複写』(会場: Ombu) 日本語通訳有

- 議長 アショカ・ゴーシュ (インド)  
 スピーカー プリニオ・カブラル (ブラジル)、ゲルマン・コロナド (ペルー)、フェデリコ・I・ソラー (スペイン)、ローレンス・ローゼンタール (アメリカ)、佐藤政次 (オーム社、日本)、ラウル・ワッセルマン (ブラジル)、イアン・テイラー (英国出版協会)



佐藤政次氏

16:30 - 17:00 休憩

全体会議 (会場: Libertador B)

日本語通訳有

17:00 - 17:30 『出版の自由』

- 議長 アラン・グルンド (IPA会長)  
 スピーカー ディナ・N・マルホトラ (インド)

17:00 - 19:00 『決議と閉会式』(会場: Libertador B)

日本語通訳有

■ 5月4日(木) ■

エスタンシア牧場への小旅行



## 決 議 案

### 1. 文化の多様性

70カ国の代表が参加した2000年5月1日から3日までブエノスアイレスで開催された第26回国際出版連合大会は、

それぞれの協会が、文化の多様性を尊重して活動し、各国の政府に対し、文化的及び言語的多様性の発展を許容する政策を採択するように提案することを要望する。

### 2. 情報の自由な流通(1)

70カ国の代表が参加した2000年5月1日から3日までブエノスアイレスで開催された第26回国際出版連合大会は、

出版の自由とすべての出版物の中から選択する読者の自由を尊重し、出版社の提供する出版物の多様性を保証するため、特にイランとチリにおいて行われているような、思想の自由な発表に影響を及ぼすあらゆる検閲を強く非難する。

### 3. 情報の自由な流通(2)

70カ国の代表が参加した2000年5月1日から3日までブエノスアイレスで開催された第26回国際出版連合大会は、

出版物と教材の自由な流通を保証するフローレンス協定の重要性に鑑み、これに未だ加盟していない国の早急な加盟を要望する。

### 4. 専門教育および読書推進委員会

70カ国の代表が参加した2000年5月1日から3日までブエノスアイレスで開催された第26回国際出版連合大会は、

国際出版連合の中に、専門教育および読書推進に関する委員会の設置を勧告する。

### 5. 定価制度

70カ国の代表が参加した2000年5月1日から3日までブエノスアイレスで開催された第26回国際出版連合大会は、

出版物の流通における安定的な法的枠組が不可欠であると認識し、特に出版物の定価制度が存在している国においては、それが出版物の性格に鑑み、文化的な選択性と出版社間の競争を維持するために最も適切な手段であることを認める。

### 6. 電子環境における著作権保護

70カ国の代表が参加した2000年5月1日から3日までブエノスアイレスで開催された第26回国際出版連合大会は、

文芸の著作物の流通に対する新しい技術の影響を考慮し、  
情報インフラ、特にインターネットの全地球的性質に鑑み、

世界の全地域の国々に対し、特に権利の制限、例外及び適用において、保護の技術的手段の効果をなんら損なわないことを保証し、WIPO著作権条約の速やかな批准と効果的な実

施がなされることを求める。

#### 7. 著作権の啓蒙と執行

70カ国の代表が参加した2000年5月1日から3日までブエノスアイレスで開催された第26回国際出版連合大会は、

アナログおよびデジタル環境のいずれにおいても、著作権法の執行の欠如によって生じる著作物の海賊版が、全世界の著作者、出版者ひいては一般公衆の利益に重大な影響を及ぼしているため、

著作権啓蒙キャンペーンを奨励し、すべてのWTO加盟国がTRIPS協定を早急かつ効果的に合意し、完全に適用することを要望する。

#### 8. *Dominio Publico Pagante*

70カ国の代表が参加した2000年5月1日から3日までブエノスアイレスで開催された第26回国際出版連合大会は、

現存している *Domaine Public Payant* (公有に帰している著作物に対する政府への支払い) システムの廃止を勧告する。

#### 9. 教育費の増額

70カ国の代表が参加した2000年5月1日から3日までブエノスアイレスで開催された第26回国際出版連合大会は、

各国政府が、国民の要求を満足させるという観点から十分な割合まで、教育予算を増額させることを要望する。

(以上の決議案は、2000年10月に開催されるIPA理事会において、最終的に承認される予定。)